



札幌管区気象台 150年の歩み

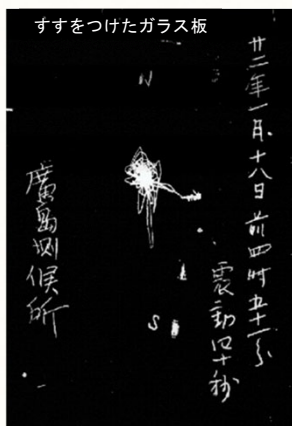
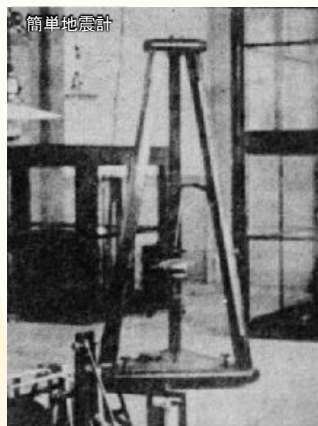


札幌管区気象台の様々な業務の昔と今②

昔

今

地震観測



すすをつけたガラスの板の上に水平面上の揺れの動きを記録していました。震度は体感により測定していました。



地震計や強震計などの様々な機械で地震を観測してデータを集めてきます。このデータをもとに震源や震度を瞬時に求めています。

火山観測



北海道内では1951年から火山観測が始まりました。目視により火山を観測し、異常があれば、職員が現地調査を行っていました。

(写真は1952年 十勝岳)



2025年7月現在、北海道内には31の活火山があります。

このうち9火山では現地調査だけでなく、監視カメラや地震計などを使い、24時間365日常時観測を行っています。

